

HELLO SAGA



佐賀県国際交流協会・協力情報誌

心の国境をなくそう！
Free your heart of borders!



「HELLO SAGA」は100回目の発行を迎えました。これもひとえに皆さまのおかげです。
これからもどうぞよろしくお願いいたします。

公益財団法人 佐賀県国際交流協会

Saga Prefecture International Relations Association (SPIRA)

さが多文化共生センター Center for Multicultural Society in Saga



HELLO SAGA
バックナンバー

〒840-0826

佐賀市白山2丁目1番12号 佐賀商工ビル

Saga Shoko Build. 1F 2-1-12 Shirayama, Saga City

TEL:0952-25-7921 FAX:0952-26-2055

E-mail:info@spira.or.jp

Consultation Service(相談専用) TEL:0952-22-7830

佐賀県国際交流協会は創立30周年を迎えました!

佐賀県国際交流協会 30周年を祝して



佐賀県知事
山口 祥義

佐賀県国際交流協会が創立30周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。
設立以来、本県の国際化に力を尽くしてこられました歴代理事長様をはじめ、全ての関係者の皆様に対し、深く敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

急速なグローバル化に伴い、近年の佐賀県においては海外からの来訪者が増加し、また、在住外国人は県人口総数の1%近くを占めるようになりました。

こうした中、貴協会では、多言語での相談対応や日本語教室への助成、災害など非常時の講習会を行うなど、外国人の方々が佐賀で安心して暮らしていくためのきめ細やかな支援をされています。また、異文化理解講座やさが国際フェスタなど、佐賀に暮らす外国人のみなさんの言語や文化を紹介する機会は、様々な背景を持つ人たちが交流し、互いを理解しあう場となっているように思います。

「人を大切に、世界に誇れる佐賀づくり」を県政の基本理念として、私も、一人ひとりの幸せを大切にする地域づくりに取り組んでまいります。

これからも、異なる文化の人たちが互いに理解し助け合う多文化共生社会を、そして誰もが安心して暮らせる社会を、ともに創り上げていきましょう。

結びに、佐賀県国際交流協会の今後ますますのご発展を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

佐賀県国際交流協会 30周年を迎えて



県国際交流協会理事長
黒岩 春地

佐賀県国際交流協会は、1990年2月7日、県、市町村、民間の出捐により、設立されました。以来30年佐賀県を取り巻く国際情勢が大きく変わる中で、協会は、沢山の人の支えられ、今年、30周年の節目を迎えることができました。心から感謝申し上げます。

30年前、協会がスタートした時、佐賀県に住む外国人は、1,799人。今は、その4倍の7,204人の外国人の皆さんが、この佐賀県に住んでいます。

協会の活動の柱も、「国際交流」から「多文化共生」に大きくシフトしました。今は、「佐賀県内に住む外国人の皆さんとどう向かい合うか」、「外国人県民の皆さんの力を地域づくりにどう生かすか」が、メインテーマになってきています。

Free your heart of borders! 心の国境をなくそう!

これは、協会のスローガンです。これからも外国人県民を仲間として迎え入れ、ともに佐賀の地域づくりに励んでいきたいと思っています。

今後とも、皆さまのご支援ご協力、よろしくお願いいたします。



佐賀県国際交流協会創立30周年式典 集合写真 2020年11月14日

創立30周年式典の様子

佐賀県国際交流協会（SPIRA）は、1990年2月の設立から、今年で30周年を迎えました。

当協会の活動がこれまで継続できたことは、ひとえに県内で国際交流・協力活動をされている団体や、個人、地域日本語教室の皆様や、協会ボランティアの皆様、賛助会員の皆様のご協力にささえられてきたからこそであると、職員一同感謝いたしております。

そこで、協会では設立を祝う式典を11月14日（土）にホテルマリタール・創世で執り行いました。第一部では、19団体、15名の個人と県内の地域日本語教室の皆様に日頃の感謝の意を表し、記念品を贈呈させていただきました。

また、会場横では、県内の外国人住民や県国際課のCIR（国際交流員）らによる「ワールド・カフェ」も開催され、世界のお茶や、コーヒー、お菓子を来場者にふるまい、世界を感じてもらう機会もつくりました。訪れてくださった方々にも楽しんでいただけました。

私達、佐賀県国際交流協会（SPIRA）はこれからも、県内の多文化共生の推進に尽力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

SPIRA 職員一同



記念品
贈呈



ワールド
カフェ



第二部の基調講演では、認定NPO法人テラ・ルネッサンス創設者の鬼丸昌也氏より、アフリカ ウガンダでの少年兵の自立に向けた支援活動や、カンボジアでの地雷撤去活動の話をさせていただきました。中には、心が痛むような話もありましたが、鬼丸さんは世界で起こっている紛争の事実をそのまま伝えてくださり、聴く人に、争いをなくすには「私たちに何ができるのか」ということを深く問いかける貴重な話をさせていただきました。



30周年式典当日の
様子をぜひ動画でも
見てみてね♡



「2020さが国際フェスタ」 メインイベントを10/4に開催しました！

10/4(日)、神埼市の王仁博士顕彰公園で無事に今年のフェスタのメインイベントを開催することができました！

当日は約40の団体に参加していただき、様々な国の料理や多くの体験ブースもあり、日本や海外の文化に触れたり、地域に住む外国人の方たちとの交流ができたと思います。今回はコロナ禍での開催になり、実施自体を直前まで悩みましたが、実施を決めてからは、いかに安全に行うかを考えて準備を進めました。

そのような状況でしたので、当初の目標来場者数は500人としていましたが、当日は延べ1,400人の方に足を運んでいただき、大盛況のうちに終えることができました。

今回参加していただいた多くの団体、留学生、その他関係者のみな様には心より御礼申し上げます。また、今回ご協力いただいた神埼市の職員の方々には心より感謝しております。事前の準備から広報、当日の人員確保まで大変お世話になりました。

SPIRAでは毎年10月を「さが国際フェスタ月間」として、1ヶ月間を通して世界を感じるさまざまなイベントを開催しております。来年の開催地が決まり次第、HP・Facebook等でお知らせします。来年もたくさんのご来場をお待ちしております。



第5回 外国人による日本語スピーチコンテスト を開催しました。

皆さん、お疲れさまでした！
そして、受賞者の皆さん、おめでとうございます！

受賞者

青少年部門

- 👑 **金賞** 趙佳鈴さん (中国)
- 🥈 **銀賞** パク チャンミさん (韓国)
- 🥉 **銅賞** 井口 智博さん (中国)
- 🏆 **銅賞** パク チャンヨンさん (韓国)

成人部門

- 👑 **金賞** 張美永さん (韓国)
- 🥈 **銀賞** キム ミヨンさん (韓国)
- 🥉 **銅賞** プラタマ フダン ジャトニカさん (インドネシア)

審査員特別賞: ネバリ スラズさん (ネパール)



10月11日(日) 佐賀市のエスプラッツホールにて日本語スピーチコンテストを開催しました。今年も佐賀市、佐賀市国際交流協会との共催で行い、青少年部門4名、成人部門14名の計18名が出場しました。

今年のテーマは、青少年部門が「夢・挑戦したいこと」または「ありがとう」のうち1つを選択、成人部門は「国際理解を深める内容」です。青少年部門では日本に来て言葉もわからないまま学校に通う子どもの苦労や葛藤、そこから生まれる友達とのつながりや両親への感謝まで、子どもながらに訴える気持ちがとても印象的でした。成人部門では、母国の家族を思う気持ちやジェンダーに関する内容など、様々な視点からの国際理解が表現され、聴く者に多くの気付きを与えてくれました。

今年は新型コロナ対策で観客を関係者のみに絞ることとなり、初の試みとして九州龍谷短期大学の先生や学生さんにご協力いただきYouTubeによるライブ配信に挑戦。いざやってみると、海外にいる出場者の家族も見ることができたという声もあり、嬉しい結果に繋がりました。新型コロナの影響により様々な制限を強いられる中、諦めるのではなく工夫しながら地道に続けていくことの大切さを学んだ機会でもありました。

「心の国境をなくそう！」SPIRAフォトコンテスト2020 第1回目 写真展を開催しました。

佐賀県もだんだんと外国人が増え、今では7,200人を超える人たちが生活しています。佐賀の国際化の現状をたくさんの人に感じてもらうことを目的に開催し、今年度は日本人・外国人計29名の方々にご応募いただき、その中から4作品が入選。第1回目のパネル展示会では、入選作品を含む43作品を展示しました。年度内に他の施設においても第2、3回目の展示会を行う予定です。詳しい日程等はQRコードよりご確認ください。



美味しいものにはやっぱり場所(みかん倉庫)も国境も関係ない。

金賞 受賞作品

カルミナ ルイズ ムラカワさん
メキシコ出身/佐賀市

<審査員コメント>

とてもユニークな写真。
一枚の写真の中に、若い黒人男性と年配の日本人男性という対比があるが、全く同じポーズで同じ団子を食べている共通点もあり、奇しくも瞬きのタイミングまでもが同じ。作者のユニークな着眼点が、決定的瞬間を写真に収めることに成功させている。如果说、背景の整理と写真編集をするともっと完成度は上がるだろう。



ベトナム人8人と日本人2人で花見をしました。昔の駅でお弁当を食べて昇開橋まで歩きました。この写真は橋の上でみんなで撮りました。

銀賞 受賞作品

グエン ディン ソアンさん
ベトナム出身/鳥栖市

<審査員コメント>

外国人と日本人が入り混じって遊びに行った際の写真のようだ。とても楽しい雰囲気がある。誰かが撮ろうと言い出し、カメラを床に置いて撮ったのだろうか、もはやシャッターを切ったのが誰なのかも分からなくなり、ケータイならではの写真で現代性を感じる。



心を浄化する通路

銅賞 受賞作品

コウ テイシン
寇 荊晨さん
中国出身/佐賀市

<審査員コメント>

太良町にある海中鳥居に向かう際に撮った写真だろう。
作者は外国人のようだが、雄大な自然に感動するのは万国共通の心理であると思う。自分が何に感動したのか？それをどう撮れば見る人に伝わるのか？を考えて、冷静にシャッターを切っているように感じる。感情と技術のバランスのいい作品だ。



Brother who is there to share my moments with
日本語訳：
一瞬一瞬と一緒に過ごしてくれるブラザー。

審査員特別賞 受賞作品

Reena Badeさん
ネパール/佐賀市

<審査員コメント>

飲み会の際に盛り上がっている二人を撮影した写真のように思える。画面構成を日本人と外国人の2分割になるよう構図を考え、二人の帽子が対比となり違う人種だということを理解させているが、両手はしっかりと握手をしている。作者が感じた国際交流の素晴らしさや熱いものが画面全体から伝わってくる。

SPIRAの事業紹介 外国人向け防災セミナー

外国人の方は、災害時、母国との災害の種類の違いや、言葉の違いに戸惑い、とても不安を感じると言われています。また、災害時に使う日本語は、普段の生活で使わない言葉が多く、それが壁となり、私達日本人なら誰でも得ることができる災害情報も、得ることが難しくなっています。SPIRAでは災害時に、8言語で情報発信をしていますが、外国人住民の方も、災害や防災に関する知識を身につけ、自分の身は自分で守ることができるように、「外国人向けの防災訓練」も行っています。



今年は、佐賀大学で留学生を対象に消火器体験や、煙訓練(煙が充満した部屋からの避難)などの体験型の訓練を行いました。当日は他にも、佐賀広域消防局と日本赤十字社の協力を得て「佐賀で起こる災害」の講話と、「防災グッズの紹介、非常食の試食」も行いました。

参加した留学生からは「自分の国には地震や大雨の災害はほとんどないし、防災訓練というものもない、なのでとても勉強になった」といった声や「災害に備えて防災グッズを事前に準備しようと思った」といった声がありました。



今後は、地域住民と外国人住民が一緒になって、防災を乗り越えられるようなセミナーや、訓練の実施をしていきたいと考えています。

当協会では、昨年度日本人向けの「災害対応ガイドブック」を作成しました。

このガイドブックは、普段外国人と接したことがない日本人の方でも、災害時戸惑うことなく外国人に接することができるように、配慮や対応の仕方をまとめています。

こちらのガイドブックに関する出前講座(無料)も行っておりますので、ぜひお問い合わせください。



JICA OB・OG通信

JICAの皆さんはどんな活動をしているの？JICA海外協力隊やシニア海外ボランティアとして実際に派遣されていた方から、その活動についてお聞きます！

今回紹介するのは、派遣国のタンザニアから2019年7月に帰国され、2020年1月よりJICAデスク佐賀の推進員に着任された武田さんです。実は、武田さんの派遣国と職種は、前号のハローさがにご登場いただいた原志帆さんと同じであるため、武田さんには、主に現地の面白エピソードについてお話を伺いました。



武田 七重さん
派遣国：タンザニア
職種：看護師



タンザニアの主食は
ウガリ、バナナ、
ごはんです

Q1. 青年海外協力隊に参加したきっかけは？

私は剣道をやっていたのですが、中学生の頃、チームメイトと共に団体戦で全国大会に出ることを目標に毎日練習をしていました。県大会2位にはなったのですが、県2位では九州大会の出場のみで、全国大会に出場する事は叶いませんでした。「負けたのは自分の責任だ」と感じて挫折したんです。そんな時、テレビで7歳の難民の子供がインタビューを受けている映像を見ました。その子は「将来は医者になりたい」と語っていました。

それが本当に衝撃的で、私は恵まれた環境にしながら落ち込んでいたのに、困難な状況でも生きる希望を持った人達がいることを知りました。そこから是非、開発途上国に行きたいと思いました。ただし、海外に出る前に何か技術を身に付けてから行きたいと思い、保健分野に進むことを決めて看護師になり、8年ほど経ったときにそろそろ役に立てるかなと思い、青年海外協力隊に応募しました。

Q2. 派遣期間中に現地メンバーと環境教育のMusic videoを作られたと伺いましたが、どのような曲でしょうか。視聴するには？

タンザニアにはごみを分別する文化がなく、ポイ捨ては当たり前です。しかし私は看護師であり、病院内ではごみの分別を指導していました。指導するものの、間違える人も多くそれは一体何故なのか？といった疑問や、一歩病院の外に出ればごみがポイ捨てされている状況に憤りを感じていました。そこで学校教育において環境教育を習うのかと聞いたところ、答えはNOでした。それでは皆知らないのも当たり前だと思い、みんなが楽しく学べる教材としてMUSIC VIDEOを作成し、公共交通機関であるバスやタクシーで流せばよいのではないかと考え活動しました。YoutubeでNanae Tで検索頂くと視聴が可能です。（スワヒリ語の歌ですが、コメント欄に日本語訳を載せております。）



Music videoジャケット写真



武田さんとメンバーの皆さんで
作られた環境教育のMusic video

Q3. 現地の言葉（スワヒリ語）の中で、武田さんが好きな言葉を教えて下さい。

『ボレボレーゆっくりゆっくり』

日本とタンザニアでは時間の感覚が異なり、すべての作業はゆっくり進みます。派遣されたばかりの頃は、日本人である私は非効率な行動や作業に慣れずイライラする事もありましたが、無理をしない彼らなりの生き方に、行き急いでいた自分を感じました。焦りそうな時は、『ボレボレマインド』を忘れずに行動できればと思っています。

Q4. JICAデスク佐賀推進員として1年間活動されてみていかがでしょうか。感想や具体的な活動をご紹介します。

目まぐるしく活動しているうちに、あっという間に1年が経ちました。今年はコロナ禍において活動制限される事もしばしばですが、佐賀デスクでは毎月行っているイベントが4つあるおかげで、今年度も楽しく過ごせました。

- ①JICA海外協力隊ラジオ（毎月第1・第5水曜日19:00～20:00）
JICA海外協力隊や国際理解・国際協力に関連した情報発信。
- ②地球発見隊ナビ（毎月第2水曜日18:00～20:00）
開発教育に関する勉強会。先生や協力隊経験者が参加。
- ③JICA海外協力隊ナビ（毎月第3日曜日午前10:00～）
JICA海外協力隊に関するイベント（活動報告会、WS、映画上映など）と応募相談会。
- ④ホストタウンおもてなしイベント

今月から2021年に行われるオリンピックパラリンピックに関連して、佐賀県庁、佐賀県国際交流協会、サフディ佐賀（タイ）、マッシュドライブ（セルビア）、Kia ora kiwi（ニュージーランド）といった関連団体の皆さんと協働しおもてなしイベントを毎月実施しており、国際理解講座の後は、料理教室やWSイベント等行っていく予定です。

各イベントの日程等は
JICAデスク佐賀HPにてご確認ください。



佐賀県留学生等 受入促進プロジェクト

ホストファミリー大募集！

日常生活の中で、異文化交流を体験してみませんか！

佐賀県教育委員会では、海外から佐賀県を訪れる外国人留学生等を受け入れてくださるホストファミリーを募集します。ホストファミリーになって、日々の生活の中で留学生との交流を通して世界を身近に感じてみませんか。ぜひ、ホストファミリーバンクにお申込みください。

ホストファミリーになると

- 留学生を家族の一員として迎えることで、日常的に家族の皆様が異文化交流を楽しむことができます！
- 日本や佐賀の文化・ことば・食などを通して、日本や佐賀のよさを留学生や海外の方々に伝えることができます！
- 帰国後も、留学生と様々な交流が続き、家族としての絆を深めていただけます！

問合せ・申込先

佐賀県教育庁教育振興課
電話：0952-25-7411
E-mail：global-jinzai@pref.saga.lg.jp

※募集要項
等の詳細は



まずは、おでむかえ!!



料理にチャレンジ!!



いっしょにお出かけ!!

『外国人と共に働くシリーズ No.7』 共に笑って共につくる佐賀県

「佐賀で外国人と共に働くことは、どういうこと？」や「外国人がいる職場って、どんな職場？」などをテーマに、『共に働く』ということについて外国人が佐賀で働く中で抱えている悩み、思いを率直に綴ります。

《今回のゲスト》

- ★李 梅桂(り ばいけい)さん
- ★台湾出身
- ★佐賀県立盲学校教員

視覚障害を持つ李さん、台湾で日本語に興味を持ったのは中学生のころ、日本のアニメがきっかけでした。大学では第二言語で日本語を専攻し日本文学を学びます。就職した台湾の日系デパートでは、障害を理由に差別的な扱いを受ける辛い経験もありました。9年前、理療の道を目指した李さんは、現在、佐賀市の盲学校で、生徒思いの熱心な先生として働かれています。

Q. どんなきっかけで、佐賀県立盲学校の先生になろうと思いましたか？



A. 一般企業での仕事はむずかしいと思い、あん摩の仕事に就くことを考えました。しかし台湾では、あん摩を専門的に教えてくれるところはありませんし、鍼(はり)は医師の仕事です。東京の筑波大学附属視覚特別支援学校で鍼・灸・あん摩の免許を取得できると知り、入学を決意。3つの技能免許を取得後、大好きな鍼の仕事ができる日本で就職したいと思い、先生に相談しました。先生は、公務員として盲学校の教員になることをアドバイスされました。それから筑波大学理療科教員養成施設で勉強し、教員免許を取得しました。それから、佐賀県立盲学校の当時の校長先生が、東京まで面接に来られました。佐賀の観光地や生活のことまで丁寧に教えてくださって、とても嬉しかったです。そうして私は今、佐賀の盲学校で、東洋医学、解剖学、鍼の実習を生徒に教えています。毎日が楽しいです。

Q. 李さんの心がけていることや、やりがいを感じることは何ですか？



A. 生徒の状況にあわせた教材作りです。解剖学で、一般の人体模型は、小さくて分解できないものが多いと思うので、トイレットペーパーの芯や粘土、布、色紙などを使い、手ざわりと、細かな構造をわかりやすくした拡大模型をたくさん作ってきました。これを使い生徒がよく理解して、成績が上がってくれれば本当に嬉しいです。生徒みんな、国家試験に合格してほしいと思っています。そのためには自分の日本語をもっと上達させたいです。



Q. 来日した頃と、今の日本の印象は何か変わりましたか？

A. 市役所で給付申請できる日常生活用具が増えました。音声が出る体重計や体温計などがあります。特にパソコンは、画面情報や操作を全部読み上げてくれるソフトを使って、自分で操作ができるようになっていました。その他、駅や施設の福祉サービスが良くなりました。駅の乗換では、係員の方が座席や目的地まで案内してくれます。私は旅行が好きで、岩手県の宮沢賢治記念館や東京の森鷗外記念館などに行きました。

Q. 視覚障害をもつ方の視点から、思うことはありますか？

A. 白杖を持って歩いている人がいたら、積極的に声をかけて手伝ってほしいと思います。恥ずかしくて、こちらからなかなか言えないので、笑顔で「手伝いましょうか」と声をかけてくれると大変助かります。

Q. 日本語で好きな言葉はありますか？

A. はい、あります。宮沢賢治の『雨ニモマケズ』です。「…決して怒らずいつも静かに笑っている」私は、口喧嘩などの争いはしません。平和で楽しく過ごして、悩んでいる時こそ笑いたいと思っています。また、「…みんなにでくのぼーと呼ばれ 褒められもせず 苦にもされず そいうものに わたしは なりたい」誰に何を言われても、意味がないと思われることであっても、自分の信念を持っていきたいと思いました。

編集者後記

今回、県国際課と共働でインタビューを行った陳です。李さんのどんなことにも努力する姿、そして、生き生きと盲学校で働く姿に感動し、パワーを頂きました。李さん、謝謝！話を通して、視覚障害者へ私たちができる配慮を考える良い機会となりました。

例えば

- 自分のほうから先に声をかけるようにする。
- 歩道や駅のホームにある黄色い誘導ブロックの上や周りに自転車をとめたり、物を置かないようにする。
- 道案内をするときは、「右何メートル先の右側にあります」など具体的に言うようにする。(「東西」とか「こちら、あちら」ではわかりません。)
- 自分の肘や肩に捕まってもらい、「階段です、上がりますよ」など周りの説明をしながら誘導する。



私たちの小さな行動で、明るい多文化共生社会に繋がります。そこには、年齢、性別、国籍や障がいの有無による違いはありません。

今回、佐賀県立盲学校のご協力でご取材させていただきました。李さんとの詳しいお話は、国際課Facebook『Excellent Saga』に掲載しています。ぜひお読みください。



Facebook

さが多文化共生センター

当協会はさが多文化共生センターを運営しています。このセンターは、外国人住民に関する総合相談窓口です。ご本人だけでなく、事業所や地域の皆さんからも相談を受け付けています。相談は無料です。

相談方法

TEL/0952-22-7830

E-mail/info@spira.or.jp



Facebook



LINE

※やさしい日本語・多言語による対面相談も実施しています。(下表参照)

相談日時: 月曜日～金曜日 9:00～12:00/13:00～16:00

(※土・日・祝日・年末年始12/29～1/3は閉まっています)

場 所: 佐賀市白山2丁目1番12号 佐賀商工ビル1F
(佐賀県国際交流プラザ内)

対面相談実施曜日・言語

	Mon[月]	Tue[火]	Wed[水]	Thu[木]	Fri[金]
English / 英語					
中文 / 中国語					
한국어 / 韓国語					
Tiếng Việt / ベトナム語					
やさしい日本語					
その他の言語は 多言語通訳コールセンター※ を使って対応します					

※多言語通訳コールセンター＝電話通訳システム

★通訳スタッフの都合により、対面での母語相談ができない場合があります。その際も多言語通訳コールセンターを使って対応します。

多言語通訳コールセンター対応言語一覧 (19言語)

English / 英語	नेपाली / ネパール語	Deutsch / ドイツ語
中文 / 中国語	မြန်မာဘာသာ / ミャンマー語	Bahasa Melayu / マレー語
한국어 / 韓国語	Bahasa Indonesia / インドネシア語	ភាសាខ្មែរ / クメール語
Tiếng Việt / ベトナム語	Français / フランス語	Монгол хэл / モンゴル語
ภาษาไทย / タイ語	Русский язык / ロシア語	Português / ポルトガル語
Filipino / タガログ語	Italiano / イタリア語	Español / スペイン語
සිංහල භාෂාව / シンハラ語		



「くらしさぽーとさが」の外国人無料相談会

行政書士さんによる外国人のための無料相談会です。

予約をすれば通訳もつきますので、日本語ができなくても大丈夫です。

🕒 毎月第3土曜日 13:00～16:00

📍 佐賀県国際交流プラザ(商工ビル1F)

☎ 090-3328-2123 (くらしさぽーとさが 松枝さん)

※通訳が必要な人は、予約してください。



ランチタイム English Seminars!

SPIRAによる無料の英語セミナーです。ランチの時間を活用し、県国際交流員マーテンさん(オランダ出身)に様々なトピックを英語でお話していただきます。笑いあり、学びあり、楽しく英語に触れましょう。

オンライン配信
となる場合が
あります。

🕒 2ヶ月1回、基本は第4火曜日

(今年度は後1回ご参加いただけます。ぜひ来てみてください!)

6/23・8/25・10/27・12/22、2/24(12:15～12:50)

オンライン視聴は開催時間帯に当協会のFacebookへアクセス→



佐賀市白山2-1-12 佐賀商工ビル1階
佐賀県国際交流プラザ内 研修室



えびすFM「心の国境をなくそう! ラジオで地球発見隊」の放送日のお知らせ

SPIRAは、えびすFMにてJICA九州、佐賀県海外協力協会との共同ラジオプログラム「心の国境をなくそう! ラジオで地球発見隊」をお送りしています。ゲストを交えながら国際交流・協力や多文化共生に関する情報を発信しています♪みなさんお聴き逃しなく!

🕒 毎月第1、3水曜/19:00～20:00

第1水曜: JICA九州+佐賀県海外協力協会『Jump to the World』

第3水曜: SPIRA(佐賀県国際交流協会)『SPIRA 多文化わいわい』

聴取方法: ラジオ周波数「89.6MHz」、スマホアプリ、
パソコンからも聴取可能です

賛助会員募集!

当協会では「多文化共生の地域づくり」に取り組んでいます。「多文化共生」意識の醸成とさらなる向上のため、賛助会員を広く募集しています。皆様の、ご支援の程よろしくお願いたします。

■賛助会員の区分と会費

個人会員	年会費 1口	3,000円(1口以上)
団体会員(団体・企業・機関等)	年会費 1口	10,000円(1口以上)

■会員の特典

- ・協会発行の国際交流・協力情報誌「Hello SAGA(年4回発行)」を郵送
- ・協会のオリジナルノベルティを呈呈
- ・民族衣装の無料貸出



その他のイベントやセミナーについては、当協会のHPやFacebookで随時更新します!

